



フレンズ

山梨県立かえで支援学校相談・支援通信 第34号 <平成22年1月12日発行>

※「フレンズ」は、かえで支援学校の校歌(杉本竜一氏作)です。本校HPにてお聴きください。

明けましておめでとうございます。

新しい年となりました。今年も県内の特別支援教育のさらなる充実に向けて、かえで支援学校も努力していきたいと思えます。本年もよろしくお願いいたします。

本校の学園祭「かえで祭」が今年の12月に行われました。今回は新型インフルエンザの影響もあり、本校保護者以外の方の参加を遠慮していただいたの開催となりました。児童生徒もかえで祭の取り組みを通して、相手の心情理解や自己表現の大切さと難しさなどを感じていたようです。また、当日の発表を振り返り自己評価を上げたり、保護者の拍手を受け自尊心を高めたりすることができたようです。かえで祭の取り組みを通して再確認したことは、人から認められることの大切さです。誰でも相手に認められると嬉しいですね。みんなの良い所をどんどん褒めてあげたくくなりました。

『輝く場、頑張れる場によって自信がもてる。集団が子どもを育てる。』

毎朝8時を過ぎると自転車や電車、路線バスで通学をしている生徒達の元気な挨拶の音が校内に響き始めます。そして、スクールバスが到着し、新しい高等部棟に活気が満ちあふれます。こうして99名の生徒の活動が毎日始まります。本校高等部では、『生徒一人ひとりが輝ける場面がもてるように』

『一人ひとりのニーズにあった教育の提供』を全職員が心掛けて一丸となって指導に当たっています。その成果として、自慢できることは『生徒達が、学校を休まない。』ということです。病気や家庭の都合による欠席はありますが、「学校に行きたくない。」という欠席の理由は聞こえてきません。

今年度も、様々な場面で高等部生の活躍がありました。普段の学校生活や学習場面はもちろん、全国障害者スポーツ大会（トキめき新潟大会）や第30回山梨県高等学校芸術文化祭など校外の場でも、多くの輝く生徒の顔が見られました。また、進路学習の一環である現場実習では、個々の目標の達成を目指し全員が頑張りました。今回はこのような高等部生の中でも特に成長の見られた2名の生徒のことを紹介します。

A君は、小・中学校とほとんど保健室登校でした。養護教諭や担任と話をしたり、自由気ままに好きなことをして過ごしていたそうです。本校入学後は、休まず自転車で登校し、集団の中で活動しています。「友だちがたくさんできて楽しい。」「自由気ままに好きなことはできないけど今の生活のほうが良い。」と言っています。友だちと活動する中で、自分のできることを知り自信をつけたり、友だちと思いを伝え合ったり、一緒に活動をする楽しさを知ったようです。Bさんは中学校時代不登校気味でした。本校に入学した4月は、毎朝学校に来ては玄関で泣いていました。「先生たちは、何でも相談にのるよ。自分の気持ちや考えをどんどん話してね」という方針で、少しでも良いから学校に来ることを勧め、登校したらほめました。次第に自分を解放し、仲間と活動をする中で自分にできることを見つけていき、仲間との活動により積極的に入っていくことができました。A君もBさんも、集団の活動の中で自分の居場所を見つけ、そして大きく成長していったように感じます。A君やBさんには、何でも話せる・相談できるという人間関係が必要だったようです。

かえで支援学校では、個別に子どもとゆっくり話せる機会が持てるよう努めています。どんな子どもも、一人で居るだけでは育たないのではないのでしょうか。子どもたちは集団の中で大きく育っています。教員、カウンセラー、相談員などどんな人とも良いので、関わりを持ち、自分を表現し、自分の力に気づき、認め、認められ、少しでも自信をつけて欲しいと思えます。

そして、集団の中で一層成長できるよう指導していきたいと考えています。（高等部主事 荻原公子）



ところで、県立甲府支援学校と本校が事務局をしている「中部地区特別支援連携協議会」というものがあります。中部地区（甲府市・笛吹市・山梨市・甲州市・中央市の一部）の特別支援にかかわる行政・医療・福祉・労働・教育の各機関が集まり、地区内の特別支援についての協議をする場なのですが、その第2回会議で、『中学・高校時に引きこもりや不登校になり、そのまま学校を卒業していく生徒の中にいわゆる発達障害の生徒がいるケースがある』という話題がでました。『発達障害という自覚や周囲の認識がないため、適切な支援が受けられず、いわゆる2次障害として引きこもり・不登校となり、結果として学校卒業後も在宅となっている』ようです。

特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議って？

昨年(2019)の2月には、中間報告として『特別支援教育の更なる充実に向けて～早期からの教育支援の在り方について～』(以下中間報告)、また同じく8月には、同会議内の高等学校ワーキンググループから『高等学校における特別支援教育の推進について』(以下WG報告)という報告が出されています。今後の特別支援教育の方向性について示唆する内容と思いますので、紹介させていただきます。

またWG報告では、「高等学校における特別支援教育体制の充実・強化」と「発達障害のある生徒への指導・支援の充実」が提案されています。特別支援教育や発達障害についての教職員や保護者・生徒の理解や認識の向上について、障害特性に応じた教科指導、キャリア教育や就労支援など卒業後を見越した指導や支援の充実について触れています。いよいよ高等学校段階での特別支援教育が本格的に始まるようです。この会議は今年の3月に終わります。どのような報告がされるのかが注目です。

参考HP ○特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議報告

平成22年度かえで支援学校高等部入学者選抜の願書受付について

重要

◆◆◆ この通信に関するお問い合わせは ◆◆◆

甲府市東光寺2-25-1(〒400-0807)



かえで支援学校

検索

